

I 概要

- 1 開催日時 令和8年2月9日(月) 午後1時30分から3時
- 2 開催場所 静岡県立焼津中央高等学校 応接室
- 3 出席者(委員) 池田恵一様、稲森錦二様、岡本康夫様、後藤陽子様、
田代直幸様、成瀬由佳理様
- 4 欠席者(委員) 藁科善彦様
- 5 協議資料 令和7年度学校経営報告書(自己評価)
令和7年度学校自己評価委員会資料

II 議題等(次第順)

- 1 開会(校長挨拶)
- 2 協議
 - (1) 学校自己評価について
 - (2) 意見交換
 - (3) 連絡事項(学校関係者評価について)
 - (4) その他(議事録について)
- 4 閉会

III 協議内容・意見の概要

1 校長挨拶

現在本校は、積極的な広報と授業改善の発信に注力している。教育面では、受験・探究・部活動を三つの柱に据え、資質・能力ベースの教育を推進中である。現状、理数系科目に課題があることから、さらなる授業・学習改善を目指している。本日はこれらを踏まえ、基礎学力定着や学校づくりに関する自己評価の基礎を提示する。

2 学校自己評価について

副校長・教頭・事務長より令和7年度学校自己評価(案)の説明を行った。

3 意見交換、質疑応答等

<校長>基礎学力の確実な定着に関する今年度の成果目標は、漠然としていたように思う。小テストや課題の質は、授業の質とも関わりがある。授業改善は進んでいるが、テスト改善が進んでいないことが来年度の課題と考えている。

<A委員>「授業が勝負」ということを、教員も生徒も意識し、授業の中で子どもがどのように変わるかを見ることが重要である。現行の学習指導要領は、社会の課題がどのように日常の課題に繋がっているか等を重視している。探究活動も教科の授業も身近なものに結び付けていくことで、授業改善に繋がっていくのではないかと。

<B委員>生徒も先生も頑張っていると思う。アの達成状況で「基礎学力が定着した」と回答した教員と生徒の割合が違っているのなぜか？

<校長>生徒の視点と教員の視点が違っており、理数系科目で教員側と生徒の目線を合わせることが大切である。共通テストでは、理数系科目で全国平均と校内平均の差が広がった。特に数学や物理で、問題が難化するとその差が広がる傾向にある。

<B委員>生徒の理解度に合わせた目線の調整が必要ではないか。

<校長>授業で、先生が説明して答えを言ってしまう。生徒にもっと考えさせたい。

<A委員>生徒に自分で考える力をつけることが重要である。先生方には、生徒の課題意識に合わせた板書計画等も工夫してもらいたい。

<B委員>教えなければならないことが多すぎることも原因のひとつではないか。

<教頭>地歴公民科では、どうしても講義型になってしまうこともある。

<C委員>進学校として勉強でより上を目指すための目標も必要だが、焼津中央の特長と

して、探究活動や部活動での活躍は人間形成に結び付いており、本校の特長としてもっと外部に発信していきたい。探究活動は、評価の成果目標が「課題解決力の高まり」だけでは弱いのではないか。評価基準を、生徒が「何をしたいのか」に置き、その目標に生徒が向かっていけるような仕組みを考えてはどうか。

＜A委員＞「総合的な探究の時間」は、課題解決能力の育成を重視している。授業が自分の身近な事から繋がれると良いと思われる。ゴミ問題一つとっても、大きな課題があり、様々に広げられる。

＜D委員＞課題解決能力の育成、特に課題発見自体に時間がかかる。しかし、探究の計画を立てるのに時間を多くかけられない。

＜校長＞本校の探究活動を見ていると、文系的な探究が多く、理数系の探究が少ない傾向にある。探究に科学的・数学的手法を取り入れて欲しい。共通テストが難化し、推薦入試で結果を出したい人が増えている。推薦入試の質向上と受験者の数を増やすようにしていきたい。そのためにも、授業の質改善が必至で、生徒に疑問をもたせて終わるような授業にしてほしい。

＜E委員＞授業、部活動もある中で探究活動も行うのはなかなか難しい。成果が出るところまで頑張れた生徒は、なぜ頑張れたのか、その理由の分析と探究結果を大学受験までつなげることが必要だろう。高校生にイメージとビジョンを持たせる必要がある。さらに探究の成果を中学生までつなげていくことが大切ではないか。探究活動の中で統計的な数字の扱いを組み込んでいくことが、理系の探究活動の充実には不可欠だと思われる。大学生の生成AIの利用に対する敷居は低い。だからこそ生成AIにはできない教育が必要であり、それは本物に出会わせること、実物を見せること、体験である。

＜F委員＞新聞などで生徒の活躍を見ると大変嬉しい。広報は大切である。授業では、黒板とプリントだけの先生方もまだいるようで、いい授業とは何か、先生方には真剣に考えて欲しい。生徒が参加できる工夫をしている先生の授業には、生徒が興味を持てる。

＜A委員＞「子どもが授業にどう主体的に参加するか」が授業づくりの根幹である。ただ覚えるだけの授業は面白くないのは当然で、子どもが自分から見つけたり、色々な人と話したり、自分から見つけたりといった子ども主体の授業にしていかなければならない。授業中に一番話していたのが、先生ではなく生徒であるような授業を大切にしてほしい。

＜B委員＞読書量増加は良い傾向である。朝読書の本のジャンルは決まっているか？

＜校長＞特に決まっていない。ただ、生徒に新聞を読む習慣はない。

＜B委員＞小中高の間に読んだ本は、目に見えない知識だが、その記憶は自分が文を書くときに役に立つ。焼津市の読書関連の委員を務めているが、小学生の間の読書量は大変多いのに中学生になると激減してしまう。読書を勧めたい。

＜校長＞共通テストは膨大な量を読ませる問題である。読解力がないと追いつかない。

＜校長＞大学の定員はあまり変わっていない。東京の私立大学への進学は、下宿代も含めた物価高騰により難しくなっている。

志太榛原地区の高校と関係者が集まって、地域学校協議会を行った。焼津市・藤枝市・島田市に現在公立高校は9校あるが、それを6校程度に再編していく方向が示された。

4 学校関係者評価について

学校自己評価と本日の説明や質疑応答を参考に、学校関係者評価を依頼した。

上記内容を確認しました。

議事録署名人

(氏名)

(氏名)